

6月のTLG

ルミナス韓国は高い技術力と高性能機械で月間100万個の製品を生産し世界各拠点へ出荷しています。



ルミナス韓国では現在350tを主体に、135tから500tまで合計14台の鋳造設備を有して、高精度なアルミダイキャスト製品を生産しています。ここにきて、カーボンニュートラルへの対応の必要性から、電気自動車（BEV）のバッテリー部品の開発依頼が多くなりました。特に韓国自動車メーカーでは、大型のバッテリーパネルやケースの開発に力を入れており、この分野での信頼性の高い鋳造技術が求められています。ルミナスグループではグループ会社が持つ半凝固鋳造技術と芝浦工業大学との産学連携で信頼性の高いバッテリーパネルの開発に取り組んでいます。開発が完了すれば、第3工場に800t級の鋳造機を設備して、バッテリーパネルの生産に対応していく計画です。この計画では最終的に8台の大型鋳造機を設置して自動化を取り入れた無人工場を目指します。



複雑な形状にもかかわらず
高い精度の製品を生産しています

全米を走る
アマゾンプライムの
デリバリーバン



左の半円形の製品を上下に組合せて、
のヘッドライトになります。

韓国のカーボンニュートラル取り組み

韓国でもカーボンニュートラルには積極的に取り組んでいます。街を走る電気自動車も増えてきました。高速道路のサービスエリアにも給電設備があることを示すサインが見られます。ただ日本同様まだまだ給電設備の数は少なく、米国のようにはいかないようです。一方で、サービスエリアの駐車場には、太陽光発電の屋根が設置されて広い敷地をうまく利用しています。

高速道路のサービスエリアを示すサインにもガソリンと一緒に給電設備を示すサインが書かれています



サービスエリアには給電設備が1基あるのみで利用している車はいませんでした。写真の車はルミナスの社有車プリウスでハイブリッドですので、給電はしません。この度20万キロでバッテリーの交換をしました。



韓国のサービスエリアの駐車場は屋根付きですべて太陽光発電になっています。



米国のスーパーの駐車場には10基の給電設備が並んでいます。



ヒュンデの電気自動車IONIQ
全く新しい斬新なデザインで
街を走っていても目立ちます。